



みんなが来たくなる楽しい学校をめざして！

1学期がスタートして1ヶ月たちました。一つ上の学年に進級した自覚と共に、新しいクラスの仲間と一緒に楽しいクラスを作って行こうという気持ちが強くなってきたのではないのでしょうか。

そんな中で、4月21日（月）に、前期専門委員の任命式を行いました。代議員・生活委員・体育委員・文化委員・厚生委員に3学年7つの学級から2名ずつ、合計70名が立候補してくれました。名前を呼ばれると力強い返事で起立し、田尻中全員の大きな拍手で承認されました。その後、各委員会から委員長と副委員長が代表で舞台に登壇し、任命書を渡しました。任命書を受け取る一人ひとりに、自ら進んで重い責任を背負う覚悟を感じることができ、素晴らしい任命式になったと感じました。皆さんの活躍を期待しています。



3年生と2年生がクラブ活動頑張っています！

クラブ活動がスタートしました。休日には、運動クラブで春の地区大会が行われました。私は、順番に各クラブの試合の応援に行かせてもらいました。どのクラブも3年生が先頭に立って戦い、それを2年生が助けるというチームワークで、見ていて感動する場面がたくさんありました。勝ち負けと同じくらい大切なものが、クラブ活動にはあると思います。チームワーク、クラブ全員が気持ちを一つにして戦う姿勢、仲間を信頼し支え合うことなど、皆さんは、多くのことを学んでいると感じました。試合では、大喜びする瞬間と悔しい思いをする瞬間を同時に体験しました



が、努力は裏切らないことを感じてくれたと思います。また、試合に出ることなく、審判や応援で頑張る生徒の皆さんの姿にも感動しました。チームを支える人の頑張りがあってこそその活躍です。チームのために献身的に動いてくれた皆さんのことを誇りに思います。本当にありがとう。

また、14日からは1年生の部活動体験がありました。限られた時間ではありましたが、2,3年生は、体験に来る1年生を丁寧に指導し、自分たちの部活動をより知ってもらうために説明してくれました。1年生の皆さん、部活動を3年間続けるのは自分自身です。よく考えて入部するクラブを決めたことだと思いますので、引退するまでやり抜いてください。上級生の皆さんは、1年生が入部してから夏休みまでの期間が全学年そろって練習できる期間です。2年生は、1年生を指導しながら、3年生と共に活動する最後の貴重な時間を過ごします。先輩の頑張っている姿を目に焼きつけながら、「目標に向かって」できる努力を続けてください。クラブ活動で努力を続ける皆さんを心から応援しています。



大阪・関西万博に行ってきました！

田尻中学校3年生が、4月18日（金）に「大阪・関西万博」に行ってきました。当日は、お天気にも恵まれ、無事に実施することができました。まず初めに、多くの外国が展示物を並べている「コモンズ館」に学級単位で入場しました。万国博覧会の雰囲気味わった後、団体入場の予約があった「ガンダム・ネクストフューチャーパビリオン」に入館しました。そこでは、宇宙エレベーターで宇宙ステーションに行き、未来の宇宙技術を疑似体験しました。大きなスクリーンに囲まれた宇宙ステーションで、悪の宇宙ロボットとガンダムが戦い、全員が無事に地上に戻ってくるという体験でした。3年生の皆さんは、とても楽しめた様でした。その後は、班行動になり、大屋根リングの下でグループ毎にお弁当を食べた後、大屋根リングなどを散策して万博を楽しむことができました。



学校教育目標と生徒会スローガンより！

田尻中学校はどんな学校ですか？と聞かれれば、とても落ち着いていて、誰もが誠実に学習やクラブ活動、学校行事に取り組める素晴らしい学校ですと答えます。皆さんは、本当によく頑張っています。大いに褒めてあげたいといつも思っています。その上で、さらに良くするために、生徒会が中心になって田尻中学校を良くするためのスローガンを考えてくれました。全校集会でも話しましたが、先生から言われたことを誠実にするところから、自分たちで考えて行動していく田尻中になってほしいと願っています。田尻町は認定こども園、小学校、中学校が一貫した教育ができるという強みがあります。改めて、田尻町一貫教育の教育方針、田尻町立中学校の教育目標、そして、生徒会が考えてくれたスローガンを紹介します。実現に向けて皆で力を合わせて頑張りましょう！

【田尻町一貫教育の教育方針】

自分の価値を見出し より良い未来を拓く たじりっ子

- ・楽しく学び続けられる子ども
- ・自分の力でやり抜く子ども
- ・人とつながり、自分も相手も大事にできる子ども

【田尻中学校の学校教育目標】

豊かな心（人間性）と確かな学力

【校訓】

自立・・・自ら学び、自ら考え判断し、行動する生徒

友愛・・・互いを思いやり、協力し、自他ともに高めようとする生徒

【生徒会スローガン】

生徒中心でみんなが来たくなるような学校

（全員にとって楽しい、全員にとって過ごしやすい環境）

学習参観とPTA総会を実施します！

5月17日（土）に授業参観とPTA総会を予定しています。学習参観は、2時間目～3時間目です。新しい学年になって頑張っている子どもたちの様子をぜひ見てあげてください。その後、4時間目に田尻中学校の体育館でPTA総会を実施しますので、大変お忙しいとは存じますが、ご参加くださいますようお願い申し上げます。総会では、教職員の紹介も行います。よろしくお願いします。

（校長 池本 勝利）

5月・6月の行事予定

5/9(金)	【2年生】校外学習(万博見学)
5/12(月)	園小中合同避難訓練
5/14(水)	検尿(～15(木)) 【2年生】耳鼻科検診
5/15(木)	中間テスト 1週間前
5/17(土)	授業参観(2・3限) PTA 総会(4限)
5/19(月)	代休
5/22(木)	中間テスト(～23(金)) ※5/22は給食なし
5/29(木)	【2年生, 1・3年対象者】眼科検診
6/3(火)	【2年生対象者】貧血検査
6/5(木)	【1・3年生】歯科検診
6/6(金)	尿検査(二次対象者)
6/8(日)	【3年生】修学旅行前日指導(登校日 給食なし)
6/9(月)	【3年生】修学旅行(～11(水))
6/12(木)	【3年生】代休 【2年生】歯科検診
6/13(金)	【1年生】校外学習(万博見学)
6/18(水)	テスト一週間前
6/20(金)	尿検査(二次対象者)
6/25(水)	期末テスト(～27(金)) ※6/25・26は給食なし
6/30(月)	【対象者】胸部 X 線撮影

“日本の縮図” 沖縄を知ることの重要性

僕が初めて沖縄に行ったとき
なんとなく もの悲しく思えたのは
それがまるで日本の縮図であるかのように
アメリカに囲まれていたからです

この詩は2000年8月に発表された
Mr.Children (ミスターチルドレン) の新曲とともに収められている
「1999 年、夏、沖縄」という歌の冒頭部分です。

沖縄と聞くと、亜熱帯の気候のもと、マリンスポーツやサトウキビ
やドラゴンフルーツといった自然の恵みや首里城やエイサーと呼ば
れる舞踊など独自の文化など、本州では味わえない魅力がたくさん



あります。現在の沖縄は、これらの観光資源を最大限活用し、年間
約1000万人が訪れています。



沖縄を訪れると、
車での移動が中心
になります。

その途中で、必ず
目に入ってくる景
色・・・それが、アメリ
カ軍基地です。

那覇市から北に進むと、国道58号線に沿って立ち並ぶフェンスに
気づきます。しかも、長い時間ずっと窓から見えるのです。しばらくす
ると、フェンスの向こうから滑走路が姿を現します。輸送用の大きな
飛行機やヘリコプター、戦闘機が並んでいます。しばらくすると、
「ゴーッ!!」という大音量とともに、車の上を通過するする機体に巡
り合うこともあります。



以前、修学旅行の下見で沖縄を訪れた時、頭上を戦闘機が通過
する場面に出会いました。那覇空港から車で移動している最中、昼
食を購入したコンビニから出てきた時でした。

ものすごい音とスピードでした。それは、普段の大阪では決して経
験することのできない音とスピードでした。文字で表現するのがとて
も難しいのです。「どんな音？」と聞かれたら、「締め切った教室内で
35人全員が空の卵のパックを一斉につぶそうとした音」とでもいえ
るでしょうか。

その後、サトウキビ畑で現地の方に「オスプレイ」という輸送機の
音に関して質問しました。今までの輸送機やヘリコプターと違って、
「カギを締め切った窓が、飛んでいる間ずっとガタガタと振動し、体
にもその振動が響き続ける」そうです。

では、沖縄に米軍基地が多く存在する背景を改めて説明します。

太平洋戦争末期の1945年(昭和20)年4月1日、アメリカ軍が
沖縄本島に上陸します。敗戦が濃厚となっていた日本は、本州を中
心とする「本土決戦」にむけて、少しでも時間を稼ぐための作戦を沖
縄の日本軍に命じます。その結果、沖縄の住民も戦闘に巻き込ま
れ、約12万人が亡くなりました。

組織的な沖縄戦は3か月にもおよび、6月23日以降、米軍の本
格的な占領が始まります。収容所に隔離した住民の土地を強制的
に奪って次々に新しい基地を建設します。1950年(昭和25)の朝
鮮戦争の開始で基地建設はさらに本格的になります。

米ソの冷戦対立が深まる中、朝鮮政争の勃発により、「日本を早
く西側陣営の一員にすること」を目的に、1951年(昭和26)、サン
フランシスコ平和条約が結ばれ日本は独立を果たします。同時に、
日米安全保障条約が結ばれ、日本に引き続き米軍基地が残ること
が決まります。講和条約の発効によって、アメリカ海兵隊はすべて米
国に撤収します。

しかし、朝鮮戦争の激化により、再びアメリカ海兵隊が、岐阜県、
山梨県、神奈川県、静岡県、奈良県、大阪府(和泉市・堺市)、兵庫
県などに駐留します。これに対し、日本各地で反対運動が起きます。
独立を果たした以降も米軍が駐留する事に強い反感が生じました。

結果、まだ米軍の統治下にあった沖縄に、本州にあった米軍基地
が次々と移転していく事になりました。現在、日本にある米軍基地の
約70%が沖縄に集中する背景はここにあるのです。

沖縄は1972年、日本に復帰を果たします。「日本に復帰すれば
基地負担も軽減される」と信じて復帰運動に必死になった沖縄の
人たち。しかし、復帰後も基地はほとんど縮小されることなく、騒音や
事故等の負担を強いられているのです。

来月は3年生が修学旅行に行きます。戦後80年を迎える今年。
“日本の縮図”と言われる沖縄の現在とその背景について知ることは、
平和について改めて考える機会でもあります。

参考資料 (高橋哲哉「沖縄の米軍基地 県外移設を考える」
2015年 集英社)

(教頭 横井武志)